

《眼科臨床エキスパート》 糖尿病網膜症診療のすべて

吉村長久，後藤 浩，谷原秀信，天野史郎 シリーズ編集
北岡 隆，吉村長久 編

本書を一読してまず感じたのは、編集者および執筆者の良い教科書を作ろうとする意気込みと熱意である。もちろん京大、長崎大の糖尿病網膜症を専門とする見識の高い、優秀な先生方によって執筆された教科書なので、その内容のレベルの高さについてはいうまでもないが、教科書が数多く出版されている近年においては、どうしても総括的あるいは一般的な内容になってしまうことが多い。また、教科書は内容的に最新の情報に多少とも遅れる傾向があるが、本書はまさに今、学会で議論されている最新の情報が数多く盛り込まれている。読んでいて非常に勉強になるという意味では、近年では出色のものであると確信する。

具体的な特徴をいくつか挙げてみよう。まず、光干渉断層計（OCT）を中心とした画像診断の領域では常に日本をリードされている先生方の執筆にふさわしく、眼底写真、蛍光眼底写真に OCT を組み合わせて、非常に病態が理解しやすく記載されていることが挙げられる。画像にはおのおの所見が付記されている点も理解を助ける上で非常に有用である。また画像写真がいずれも非常にクオリティが高いのも特筆すべきことと思われる。本書の写真を見ることで、日ごろ何気なく見過ごしていた所見も確実に頭にインプットすることができる。

第二に、糖尿病網膜症の基本的な知識もしっかりと記載されている点である。これは若い先生方の教育の面でも非常に効果的である。学会などでは、トレンドの内容のみがクローズアップされる傾向があるため、どうしても若い先生方の知識が偏る傾向がある。その点、本書は眼科医がまず知っておかなければならない知識が的確にしかもわかりやすく記載されているの

で、眼科レジデント教育にも非常に役に立つ。

第三に、トレンドの内容が数多く盛り込まれているので、糖尿病網膜症を専門とする先生方にとっても非常に勉強になる点である。小生自身、日ごろ糖尿病網膜症の診療には多くの時間を割いているが、本書によって初めて気づかされることが数多くあった。抗 VEGF 療法、ステロイド療法、広角眼底カメラ、パターンスキャンレーザー、小切開および広角観察システムを用いた硝子体手術などについても、数多くの紙面を割いて、詳しく記載されている。

第四にケーススタディとして、日ごろわれわれが診断あるいは治療に苦慮するような症例が具体的かつ非常に詳細に記載されている点である。これは臨床医にとっては非常にありがたいことで、具体例を勉強することで、明日からの日常臨床にすぐに役立てることができる。またその症例の選択の仕方も実によく考えられており、臨床医が知りたいポイントを的確についている点には感服せざるを得ない。

本書は、糖尿病網膜症を中心とした糖尿病眼合併症について、非常に広い範囲を網羅しているが、各項目のレベルが極めて高く、実践的である。本書を診療の傍らに置くことで、糖尿病網膜症の臨床が以前にも増して楽しくなることは間違いないので、ぜひ一読されることをお勧めする次第である。

大阪医大教授・眼科学 池田恒彦

B5・頁 392 2013 年

定価：本体 17,000 円＋税

[ISBN978-4-260-01872-2] 医学書院刊